

第2回外部有識者会議 議事要旨

(開催要領)

1. 開催日時: 2005 年 10 月 19 日 (10:00 ~ 12:00)
2. 場 所: (株)整理回収機構 日本橋本部
3. 出席者:

外部有識者会議委員 (五十音順)

井上裕之

片田哲也

成田正路

松下淳一

吉岡睦子

(株)整理回収機構からの出席者

社長	奥野善彦
----	------

副社長	志田康雄
-----	------

専務取締役	福田博志
-------	------

専務取締役	緒方右武
-------	------

専務取締役	橋本 聡
-------	------

常勤監査役	重成 侃
-------	------

常勤監査役	藤田重則
-------	------

常務執行役員	緒方孝則
--------	------

常務執行役員	山川隆久
--------	------

業務推進部長	安藤英徳
--------	------

業務企画部長	高橋信裕
--------	------

預金保険機構からの出席者

理事	長島 裕
----	------

総務部次長	郷 佳也
-------	------

第 1 回会議議事録 承認

テーマ「回収業務について」等説明

1. 回収業務および対象債務者の特性等について

(1) 対象債務者の状況

貸出残高階層別

正常、延滞の別

(2) 破綻金融機関買取債務者の業態別状況

業態別買取先数

買取債務者数

(3) 対象債務者の業種別分布イメージ

全体の分布状況

勘定別分布状況

(4) 担保物件の処分状況、処分方針

H16年処分状況

今後の処分方針

(5) H16年回収状況

正常、延滞の割合

延滞先回収の内訳

担保回収の内訳

(6) 法的措置対応状況

全体の対応状況

当社主導の状況

(7) 預金保険機構との協働状況

財産調査権

協働の状況

(8) 個人住宅ローンの事前相談状況

事前相談件数

対応状況

2. 相談・要望・苦情等の受付状況と対応事例について

(1) 相談・要望・苦情等の受付状況

(2) 対応事例

保証人に対する交渉難航事例

自己競落事例

外部有識者会議議長宛要望書について

. 委員からの発言

RCC から今回のテーマについて説明後、それぞれのテーマについて質疑応答を行ったところ、以下のようなやりとりがあった。

(委員) 最近、地価が上昇傾向にあるという報道がさかんに行われているが、現場での印象は如何か。また、地価上昇が RCC の業務に与える影響はどうか。

(RCC) 地価の上昇は、東京・大阪・名古屋・福岡等大都市の一部地域に集中した現象で、地方では、まだ下げ止まってはいないという印象である。こうした地価が上昇している地区で、やむをえず担保処分により回収を行わざるをえない場合には、回収額が大きくなるというプラスの効果がある。その反面、当該担保の任意売却の場合に、債務者に公正な価格について認識して頂くまでに時間のかかるケースがある。

(委員) いろいろな意味で世間から注目されていると思うが、国会での質問等を受けるケースもあるのか。

(RCC) 個別の債務者の話を国会で議論することは原則としてないが、国会議員から実際の事例に絡みやや抽象的な形で質問されることも多く、最近では保証人の問題で質問を受け、対応に苦慮したケースがあった。そのケースでも、常に他の債務者や保証人との公平の原則を念頭に置いて行動していることを繰

り返し説明した。

(委員) 保証人の間の公平という点に関し、保証人に対応する方針如何。

(RCC) 例えば国会においては、保証人は何の対価も得ていないのだから、といったことが取り上げられてきたが、多くの保証債務というのは対価なく保証しているというのが実情であり、どのようなケースでも保証債務が否定されない限り法的な責任はあるわけであり、基本は公平ということである。

(委員) 公表されている『相談・要望・苦情等の受付件数』が少ないという印象を受けるが。

(RCC) 公表しているのは、相談室に寄せられた件数である。相談室というのは社長直轄の組織である。回収の現場への相談等は、もっとたくさん寄せられているが、相談等に対しては、話し合いを行い、きちんと対応するという基本姿勢を取っているので、相当部分はそれぞれの現場で解決している。残念ながら、解決に至らなかったケース等で、相談室に寄せられたのが先程の件数であるので、当社全体の債務者数から見ると確かに少ないという印象を持たれるかもしれないが、それは、事前に十分話し合っってそれぞれの現場で対応を行っていることの現れだと考えている。

以 上
